

2021/10/13

(うと Q 世話し+オマケの英語 Media)

外は雨。

今日も今日とて又言葉の謎解きゲームです。

「あんたも暇ねえ」

とおっしゃらずにどうかお付き合いの程を。

英単語で且つ殆ど日本語化している Media (メディア) は外来語ではなく純然たる邦訳では「媒体」と訳されます。

それはそういうもんだとしてそのまま覚えてしまえばどうと云う事はないのですが、自分の感覚ではどう考えても media という語の中に「媒体」という日本語に当たるものが感じられなかったので、そもそも media の原義は何だったのかを考えてみました。

まず例によって語幹の引き出してみました。それで語幹は medi-。

Medium (ミディアム) 肉料理の中くらいの焼き方の呼称。

Median (メジアン) 統計学やマーケティングで使われる「中央値」の呼称。

Meditation (メディテーション) 最近はやりの「瞑想」の呼称。

自分が知っている英単語の medi-はこのくらいでした。

サンプル数は少ないですが、以上を通見して得られる共通項は「中 (なか)」又は「中くらいの」それと「中央」で共通項は「中」となりますでしょうか。

最後の「瞑想」がなんで「中」か、と問われれば自分なりの解釈では「瞑」の具体的中身が「頭中想」「心中想」「眼中想」だと思われたからです。なので、此処での共通項も「中」とであるとすれば media の原義は「中」が源流にある事になります。

そこでまず前者の「中」を media に宛がってみると「媒体」は「イ (にんべん)」が付きますが「仲介役」の方がぴったりの訳語の様な気がしてきました。

発信者 A の言説や映像を視聴者 B に「差し渡すなかもち役」という意味です。

しかし「中」をよりブレイクダウンした「中 (なか)」や「中くらいの」又は「中央」を宛がってみても今ひとつしっくりこないと申しますか、薄ぼんやりしていてすっきりしません。

何のなか？

何が中くらいなの？

何の中央 (まんなか) ？

と言う訳です。

それで次には上記の「中」をそれぞれ別の日本語に置き換えてみる事にしました。

曰く

「なか」は「中身」「真意」

「中くらい」は「大多数」又は「一般的な」

そして最後の「中央」は「王道」「本流」

此処で、以前自分の記事の中で話題にした「中庸」という言葉を思い出しました。  
中庸の原義は我々が普段思っている「ほどほど」とか「余り出しゃばらずに」等の「当たり障りのない」という意味とは全然違って「常に（是を表す語が「中」）偏らない努力（是を表す語が「庸」）」なのだそうです  
と言う記事でした。  
そこで又々思ったのが  
「今のメディア（media）ってそうなっているんだっけ？」  
でした。  
「常に前後左右上下に偏らない努力をしている仲介役」  
になっているのだろうか？  
今日も又、朝っぱらから辛気くさい話で申し訳ありませんでした。